

# 薬草園の花だより

第11号

2018年（平成30年）7月18日発行

## ■第11号に寄せて

前回の第10号にて梅雨入りしたことを書いたばかりですが、すでに連続8日間という真夏日を含む猛烈な暑さも経験し、なんと関東地方は6月中に梅雨明けになりました。6月中の梅雨明けは観測史上初めてのこのこと。しかしながら、その後、また雨模様の日が多くなり、「梅雨のもどり」などと言いだしたら、西日本では豪雨の災害がありました。皆さんの御実家など大丈夫でしたでしょうか。その後の関東地方は猛暑の日々ですが、このような過酷な気候の中、植物たちは元気に育っています。薬用植物園に足を運ばれ、植物たちから元気をもらうのはいかがでしょうか。

今年はアジサイの見頃が早く始まり、早くも見どころの時期は終わってしまいました。本学には種々のアジサイが植栽されていますが、その中からいくつかを写真で紹介し（印刷では鮮やかな色彩が出ないのが残念です）。なお、梅雨の時期の定番として、アジサイにカタツムリという絵をよく見ますが、皆さんはアジサイの葉にカタツムリが這っているのを見たことがありますか？ 私は見たことがありませんが、見たことのある方は是非教えてください。（船山）



アジサイ（爽やか水色）



ガクアジサイ（縁は白）



アジサイ（妖艶な紫）



ガクアジサイ（縁は藤紫）

## ■今咲いています・見頃です

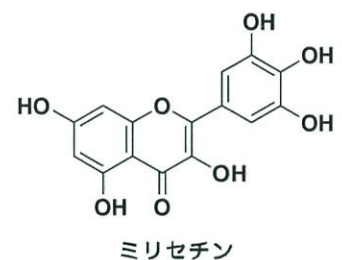
### 《ヤマモモ》

つい先ごろまでヤマモモ（ヤマモモ科）が大量の果実をつけていました。昨年たった3個だけだったのですが、今年はバケツに2杯ほど収穫されました。枝の剪定をしたりしてあげたのが功を奏したのでしょうか。



ヤマモモ

今、このヤマモモを使ってジャムを作ってみようと思画しています。皆さんに試食してもらえようになりましたらまたこの『薬草園の花だより』でお知らせします。ヤマモモの樹皮から調製される生薬をヨウバイヒ（楊梅皮）といい、ミリセチンを大量に含みます。ミリセチンは側鎖のベンゼン環に水酸基が3個結合しているフラボノールです。



### 《リンドウ》

リンドウ（リンドウ科）の花が咲き始めました。リンドウ（*Gentiana scabra* var. *buengeri*）はその根茎を龍胆（リュウタン）といい、苦味健胃薬として応用されています。因みにリンドウはリュウタンがなまったものだそうです。ヨーロッパでは同じ目的で *G. lutea* が用いられています。この生薬からは、苦味配糖体として、モノテルペン類のゲンチオピクロシドが得られ、また、アルカロイドのゲンチアニンが単離されています。ただし、現在、ゲンチアニンはゲンチオピクロシドやその関連化合物の分子内に、精製の際に使用するアンモニアの窒素原子が取り込まれて生成したアーティファクト（人工産物）と考えられています。

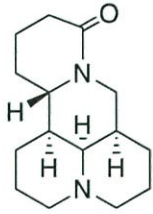
リンドウは形の美しいきりりとした花をつけますが、なかなか花が開き切るまで美しい色を保てないようで、本学薬用植物園にても蕾までは綺麗な色を保っているものの、惜しいかな花が開き始める頃には花弁の先端が少し茶色になってしまいます。



リンドウ

【クララ】

クララ (*Sophora flavescens*) の別名はマトリグサやクサエンジュであり、マメ科特有の葉と花をつけます。クララとはバタ臭い名前の植物だなあと考えていたのですが、実はこの植物の根には大変に強い苦味があり、根汁を舐めるとあまりにも苦くて目が眩む(くらむ)ので、眩草(くららくさ)という名前がつき、その省略によりクララという名前がついたといえます。またクララは苦辣(くらつ)から変化したという説もあります。生薬名は苦参(クジン)です。



マトリン

その根の苦味主成分はマトリン(matrine)というアルカロイドです。マトリンは20世紀の初めに、東京帝国大学薬学科の近藤平三郎博士らによって単離されましたが、その平面構造が報告されたのはその約30年後、そして、その天然物と同じ立体構造を有する(+)体が全合成されたのはさらにその30年後の1966年、東京大学薬学部の奥田重信博士らによるものでした。



クララ

## ■最近の他の植物写真から(2)

キャンパス内あるいは周辺にて最近撮影した植物写真から、薬用か否かにかかわらず、今回もいくつか選び出してみました。カッコ内にYNとあるのは薬用植物園にて植物のお世話をしている野本有香さんの作品です。

形の整った美しい花をつけるクレマチスが咲いていますが、わが国には類縁のカザグルマが自生しています。マメ科のキバナオウギの花もよく見ると綺麗なものです。オニユリはまさに真夏の花で今が盛りです。この植物は3倍体の帰化植物で種子繁殖できないのに全国にあるという謎の植物でもあります。ハンゲショウは半夏生と書きますが葉の半分が白くなり、まさに半化粧ですね。トロロアオイも涼しげな花をつけ始めました。薬用植物園ではいつでも何かが咲いています。



クレマチス



キバナオウギ (YN)



オニユリ



ハンゲショウ



トロロアオイ (YN)

## ■薬用植物園からのお知らせ

【月下美人と七夕さま】

前回の『薬草園の花だより』第10号にて、薬用植物園内の温室で月下美人が咲いた事を書きました。その一晩だけの真っ白い花の開花~萎れるまでの様子が漢方研究部により撮影されましたが、このたび、この動画が黒木重夫委員の御尽力にて編集され、本学のHPの「薬用植物園」のファイルにupされました。どうぞ御覧ください。

今年は、学内でも、図書館など何ヶ所かで7月7日を目処に七夕飾りが出されたようですが、薬用植物園では七夕祭りの本場である仙台市と同じく月遅れの8月7日を目処に七夕飾りを完成させたいと思っています。七夕飾りに必須の7つの飾り(吹き流し、紙衣、巾着、投網、折り鶴、短冊、屑筆)のかなりは当方ですでに作製しましたので、皆さんには主に短冊に願い事を自由に書いたり、追加の折り鶴を折ったりして飾りつけていただきたく存じます。

薬用植物園の温室中央部にはこのたび高性能の冷房設備が入ったのでとても快適になりました。この部屋にある舟底型の大きなテーブル上に七夕飾りや短冊とペンを用意してありますので気の向いた時、どうぞ。8月2日(木)の昼休み~午後3時頃までは薬用植物園の園長たちもここで七夕飾り作りの作業をする予定です。御一緒にいかがでしょうか。

発行：日本薬科大学薬用植物園管理運営委員会  
委員長(薬用植物園長) / 船山信次  
副委員長 / 山路誠一  
委員(教員) / 野口博司・西川由浩  
新井一郎・糸数七重  
委員(事務) / 今村隆・笹井彰・鈴鹿和子  
土屋翔太郎・佐藤智恵・黒木重夫